

テーマは「異常気象」

30日、市民環境フォーラム

第五回市民環境フォーラムは三十日、山口東京理科大五号館五二〇一教室で開かれる。七月十五日に厚狭地区を襲った豪雨災害を取り上げ「異常気象を考える、厚狭地区水害を振り返って」と題したパネルディスカッションを行う。山陽小野田市長、山口東京理科大共催。

厚狭地区水害でパネル討論も

クローズアップされる環境問題について、毎年さまざまな角度から考察しているフォーラム。日本の今夏の平均気温は、気象庁が統



山本名譽教授



篠原リーダー



加納教授

計を取り始めた一八九八年以降の百十三年間で最も高く、猛暑、集中豪雨といった異常気象が見られた。こうした異常気象の実情を専門家を交え、身近な問題として考える。

白井博文市長のあいさつに続き、篠原嘉一物質材料研究機構リーダーが「エコの上滑り

社会を変えるのは市民の力、加納誠山口東京理科大教授が「安心安全生きがいの暮らしは地方から」、山本良一東京大名譽教授が「低炭素革命かジオエンジンアリングか」環境騎兵隊は「こう動く」の演題で講演する。

山本名譽教授は一九四六年、茨城県水戸市生まれ。東京大工学系

研究科博士課程修了、工学博士。グリーン購入ネットワーク代表幹事、環境報告書ネットワーク代表幹事も務めるなど、新しい発想で地球環境と共存する社会の実現に向けた献身的な活動により、海外でも高く評価されている。地球を救うエコマテリアル革命」「戦略環境経営エコデザイン」など著書多数。

パネルディスカッションでは白井市長、山本名譽教授、篠原リーダー、加納教授、溝手朝子、卓立大教授、河村雅伸、バイオマス研究会代表、山縣始副市長がパネリストを務める。聴講自由。(浅野)